

令和3年度 英語教育充実プラン 高知市立第四 小学校		研究テーマ (英語教育推進方針)	英語を使って、自ら考え、伝え合うことができる児童の育成 ～児童が主体的にコミュニケーションを図る授業づくりを通して～			
年度当初の状況（4～5月調査を記載）		到達目標	年度末の到達目標達成状況（2月調査を記載）			
調査項目（意識調査の項目）		肯定的回答%	肯定的回答%	達成状況	考察	
児童	①英語の授業はよくわかる。	76.2	91.7	①15.5%向上 ②0.9%減少 *3年生 13%, 4年生 14%, 5年生 14%, 6年生 12%の児童が否定的な割合となっていた。 ③9.8%向上	①と③の項目については、目標としていた割合よりもかなりの向上が見られた。児童の実態に合わせて授業を工夫していることが成果として表れていると考えられる。しかし本校の研究テーマに関する②の項目について、やや否定的な児童が増えていることは課題である。今後、授業において児童がよりコミュニケーションの楽しさを感じられる場面を設定し、児童自身が英語を使い、伝えることの喜びを感じられる授業づくりに取り組んでいかなければならない。	
	②英語の授業で英語を使って発表することが楽しい。	86.4				85.5
	③英語が好きだ。	81.4				91.2
教員	④学習評価の在り方について理解できている。	57.1	77.8	④20.7%向上 ⑤50%向上 ⑥24.6%向上	全ての項目において向上が見られた。校内研修においても市教委の指導主事から指導助言をいただいたことや、毎週のミーティング等で教員がより自信をもって授業に臨むことができるようになったと考えられる。来年度に向けて、授業づくりはもちろん、学習評価についても他校の実践等も踏まえながらより研修を深めていきたい。	
	⑤「新教育課程を活かす 能力ベースの授業づくり」等を活用して、授業の工夫・改善を行うことができている。	50				100
	⑥英語に対する苦手意識を感じていない。	64.3				88.9
到達目標達成のための取組		取組計画		指標達成状況		
項目	成果指標	5～2月		達成状況	年度末評価	
英語教育の推進体制の整備	◆管理職のリーダーシップによる校内研修体制の確立 ◆学級担任の授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の授業力や英語力向上についての研修計画を立てる。 ・学校の実態を把握し、校内研修を計画的に実施する。 ・公開授業等を通して、研修の充実を図る。 ・授業前後にミーティングを担当、ALT、英語推進教員で行い授業改善を図る。 ・若年教員が授業を公開したり、他の教員の授業を参観したりすることができる機会を設ける。 		<ul style="list-style-type: none"> ・計画通りに公開授業や校内研修を行うことができた。 ・授業公開や事後研修をしていく中で、若年教員だけでなく、教員全員の授業力向上につながってきている。 	B	
英語教育の充実	◆「CAN-DO リスト」形式による学習到達目標の設定、活用（設定・公表・把握 80%） ◆外国語活動・外国語科の年間指導計画及び年間カリキュラムの作成・運用及び見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・「CAN-DO リスト」形式による学習到達目標を設定し、「何ができるようになるか」を児童や保護者と共有するとともに、目標の達成状況を把握する。 ・小中の連携(中学校教員による小学校の授業参観及びTTによる授業乗り合わせ) ・研修協力校での連携(公開授業や研修への相互参加など) ・外国語活動・外国語科の参観日を実施し、実際に授業を見てもらうことで保護者や地域の方への理解を図る。 ・年間カリキュラムの作成・運用及び見直し 		<ul style="list-style-type: none"> ・2月の公開授業に向けて単元での小中連携ができ、またその公開授業を中学校教員に参観してもらうことができた。 ・参観日は実施できなかったが、HP等では外国語活動・外国語の授業の様子を知らせることができた。 ・「CAN-DO リスト」をもとに、年間カリキュラムの見直しをすることができた。 	B	
英語教育の指導方法及び学習評価の工夫改善	◆教員意識調査 ⑤肯定群 60%以上 ◆児童意識調査 ③肯定群 85%以上 ◆GTECの実施・活用 (結果の分析・把握・研究の妥当性の検討)読む(R2)69→(R3)72 話す(R2)76→(R3)80	<ul style="list-style-type: none"> ・校内で推進教員を中心とした全校研や校内研修を実施し、学校全体として授業改善を進める。 ・講師招聘のもと、英語教育の指導方法及び学習評価についての研修会を実施する。 ・「Kochi 使える広がる Fun!Fun!えいご」等を授業で活用し、児童の英語力向上を目指す。 ・児童が英語を使う必然性のある場面設定をし、進んでコミュニケーション活動が行えるように単元ゴールの設定を見直す。(場面設定をはっきりさせることで、児童が学習の成果を実感できるようにする。) ・児童一人一人の学習状況の把握に努め、児童の意欲を高める学習評価の在り方について研究する。(評価におけるパフォーマンステストの研究など) ・先進校などへの公開授業や研修への参加 		<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業研究会のときのみではなく、校内研修においても指導主事による指導や助言をもらうことで、教員の指導力向上につながった。 ・意識調査の結果においても、教員・児童ともに成果として表れている。 ・単元ゴールの見直しを行い、児童が進んでコミュニケーション活動が行えるようになってきているが、学年によって少し差ができてきていることは課題である。 	B	